

教育連携講座 中澤 静男 教授



ESDティーチャーの育成 歴史文化遺産を通したESD



キーワード ESD/ SDGs/ ESDティーチャー/ ソマティック・マーカー

どのような研究をなぜ行っているか

現行の学習指導要領から、「持続可能な社会の創り手」の育成が、すべての学校教育の目的となりました。この持続可能な社会の創り手を育てる教育がESD（持続可能な開発のための教育）です。世間的にはSDGs（持続可能な開発目標）の認知度が高いですが、SDGsを達成するためには、①国際協力、②技術革新、③新しいシステムの導入といったトップダウン的なものに加えて、SDGs達成の重要性を理解し、④自ら参加・協力しようという多くの人々の存在が不可欠であり、そのような人々を育てる教育がESDです。

持続可能な社会をつくるためには、まず、持続不可能な状況に「気づく」ことが必要です。そこで注目しているのが、アントニオ・ダマシオのソマティック・マーカー仮説です。我々の脳は、内蔵や感覚器官から、寝ている間もずっと刺激を受け続けていますが、特定の刺激に対しては、ソマティック・マーカーと呼ばれる脳内信号が発せられ、気づきや行動化を促します。ソマティック・マーカー装置は生き残りの確率を高めるために、すべての生き物が持っています。社会的動物である人間は、所属する文化に受け入れてもらえる行動ができるように、後天的なソマティック・マーカー装置も持っています。つまり、人間のソマティック・マーカー装置は教育や経験によって育てることができます。そして繰り返し、多様な場面でESDを学ぶことで、持続可能な社会の創り手としてのソマティック・マーカー装置は鋭敏に、洗練化されていきます。ここに、学校教育全体でESDに取り組む必要性が見いだせます。

奈良には毎年多くの修学旅行生がやってきます。修学旅行をESDを学ぶ機会にするために、歴史文化遺産を通したESDに取り組んでいます。平城宮跡以外の古都奈良の文化財は、1300年間にわたって受け継がれています。ずーっと現役です。そこには、持続可能な社会づくりのヒントが内包されているはず。具体的には、①国際協力、②技術革新、③新しいシステムの導入、多くの市民の参加・協力の跡を探して文献調査だけでなく、現地調査やインタビュー調査を楽しんでいます。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

ESDに関わる研究として、ESDを指導する教員に求められる資質・能力を抽出し、それを育成するための研修プログラムを開発しました。ESDティーチャープログラムです。

- (1) ESDティーチャーの育成と研修
本学の学生だけでなく、ESDを学びたい現職の先生方を対象としたプログラムを展開しています。
- (2) 奈良新しい学び旅
修学旅行生を対象に、歴史文化遺産を通したESDとして、「奈良で学ぼうSDGs」を展開しています。
- (3) ユネスコクラブの活動支援
4人からスタートしたユネスコクラブが、今や80名超となり、ますます楽しく活動しています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

平成28年度からESDティーチャープログラムを展開しています。これまでに40名の学生、213名の現職教員に、ESDティーチャーの認定証を授与させていただきました。今後、全国でESDの授業実践に取り組んでおられる方々をオンラインでつなぎ、学び合えるネットワークの構築を進めていこうと思います。

